

令和8年度 第1回 部活動の地域移行のあり方検討委員会 議事要旨

令和8年7月3日（金）15:00

神戸市総合教育センター701号室

1. 事務局説明

資料「コベカツの取り組み状況について」により説明

2. 各委員による意見交換

（委員）中学生の参加を促すためのPRなど何か考えている施策があれば紹介してもらいたい。

→（事務局）年度当初頃より各学校からその地域で登録されているクラブについての情報提供を生徒へ行っている。クラブ周知用ブースの設置や、各クラブに来校いただいて合同説明会等を実施している。

（委員）今年の1年生が意外とたくさん入部したので少し驚いている。入部率はどれくらいか。

（委員）1年生の3分の2から4分の3程度が部活動に入部している。部活動と同じスポーツ・文化系のコベカツに行くかどうかについては、子供たちはすごく悩んでいる。

（委員）1年生の入部率は例年通り。夏の市総体が始まったところで、入会するコベカツクラブについては、なかなか考えられていないというのが現状。

→（事務局）入部率が去年から劇的に落ちているという状況ではない。市総体が終われば、コベカツに気持ちを切り替えられるよう、情報提供の機会を設けるということが大事だと考えている。

（委員）活動環境の整備など、課題になりうる問題への対応は本当にきめ細かく、他都市も注目しているが、このきめ細かさがあるからこそコベカツである。国は昨年12月にガイドラインを出し、認定制度ができた。この1,000のクラブは認定制度に準じていくものか。

全国では例のない基金化・条例化というところが素晴らしいが、10億円はどのように運用するのか。

→（事務局）国の認定制度については、神戸市においても適用していく予定。基金の10億円の積算としては、年度当たり約5,000万円と見積もり、20年分の10億ということを想定している。

（委員）学校では先生方が生徒に対する様々な配慮ができた。コベカツでは、クラブだけの接触になり、そこまでクラブに負担させていいのかという気もする。ハラスメント等々が起こった場合は、教育委員会が仲裁に入ることがあるのか。他県でマイクロバスの事故があった。校区外あるいは場合によっては区外の方に出ていくことも想定される。教育委員会としてどう考えているのか。

→（事務局）学校では子どもたちの状況も見守っていく。その中でコベカツクラブに伝えた方が良い情報があれば、学校とコベカツクラブが連携して、教育委員会も間に入りながら適切に生徒と接していく。ハラスメントについて、研修は当然行っていくが、相談窓口として「安心・安全ホットライン」を設けており、子どもたち・保護者の不安をしっかりと受け止めていきたい。コベカツでの活動場所の調整にあたっては、できるだけ広く使えるようにしており、遠征をして練習試合をしないといけないという状況は、少し緩和されるものと考えている。大会や練習試合に伴う移動の方法については、生徒や保護者と

計画を共有して、安全第一で行っていただくことが大事。教育委員会としても周知していきたい。

(委員) これまで、小学6年生への部活動の情報提供は、11月から12月頃に部活動見学・体験という形式で行われていた。今後、小学校への広報について何か予定しているのか。ホームページを使った説明は、小学生にとってやや難しい。自身のタブレットで見てわかる内容にすれば、子どもたちの理解も自然に進んでいくのではないかと。コベカツに参加しない生徒の放課後の居場所はどう考えているのか。

→ (事務局) 小学6年生への情報提供については、子どもたちに分かりやすい表現を念頭に組み込んでいく。放課後の居場所づくりについては、学校で創作活動や自習、美術活動等をする場をつくり、教員がそれを緩やかに見守るような居場所の確保の準備を進めている。

(委員) 今後、中体連が運営してきた大会等をどのように運営していくか。

→ (委員) 新人戦や夏の市総体が中体連で主催している大会であるが、教員が担ってきた部分をうまく引き継いでいけるよう、調整している。

(委員) 学校でのブースを使つての説明会に参加したが、種目によって生徒の集まり方がかなり違った。

(委員) コベカツクラブの団体登録というのは、今後どのように行っていくのか。

→ (事務局) これまでのように、期間を区切って大規模に募集することは想定していないが、様々な事情で辞めるケースも想定されることから、個別協議という形で、子どもたちのニーズに応じて、きめ細かくクラブ立ち上げを調整していく。

(委員) コベカツの趣旨である「自分の好きなことをやると同時に、一つにこだわらずに複数やることも推奨します」といったメッセージは、地域や団体、保護者や子どもたちにしっかり届ける必要がある。これだけクラブが手を挙げてくれたのはありがたいが、存続させていくという視点も大事。

(委員) 9月からコベカツが始まるということで、現在の教員にはどのような変化があったのか。移動支援実証事業により、対象の3校の生徒の変化・動向はどうか。所要時間はどれくらいか。

→ (事務局) 世代によって差はあるが、コベカツに意欲的な教員もいる。少し手が空いてきたら、また手伝いたいという声も聞こえている。移動支援の行き先は決まっている。大沢中・淡河中の生徒は、かなりのクラブが登録されている有野中へ。神出中の生徒は樫谷中へ。所要時間はそれぞれ約15分。これまでと比べると、クラブが多く揃っているところに行けるため、選択肢としては充実する。

(委員) 事務局として、今一番不安なこと・困っていることは何か。

→ (事務局) 子どもたちが自分の放課後をどのように決めていくのか、学校も我々もしっかりと背中を押してあげられるような、そういったスムーズな移行ということが大事であると考えている。このあたりに特に力を入れてやっていきたい。

(委員) これから進めていく中で、様々なことが出てくると思う。日本全国すべて誰もがわからない手探りの状況であり、すべての人が積極的に協力できるわけではないが、みんなで一緒に考えていく雰囲気が必要。みなさんいろんな場に関わっておられるので、ぜひともアンバサダーとしてお願いしたい。